

担い手の資金ニーズにお応えします！ JAさいたまの農業融資

生産者の経営を支えて、様々な資金ニーズに対応すべくJAさいたまは生産者に寄り添って農業融資をご提案しております。

農業融資



次男の就農と、さらなる品質向上への決意

さいたま市見沼区で大玉トマト「麗旬」を栽培する長島一博さんは、品質へのこだわりから品種を絞り、指名買いされるほどの人気を築いてきました。そこに昨年、次男の弘樹さんが24歳で親元就農。「自分たちが作ったトマトを選んでもらえる喜び」を実感する弘樹さんの加入により、家族経営の体制がさらに強化されました。弘樹さんは、今後の厳しい栽培環境に対応するため、将来を見据えた規模拡大を決意しました。

さいたま農業協同組合 長島農園 長島 一博さま、弘樹さま

事業内容

米の栽培や、大玉トマトの「麗旬」をメインに約10種類の農産物を生産・販売

主な出荷先：JAさいたま直売所（木崎ぐるめ米ランド、三宅ぐるめ米ランド、安行農産物直売所）、近隣スーパー等
長島農園で直売も行っている。



ハウス新設に伴う設備資金の確保と、効率化の推進

長島さん親子は、ハウスを新設して栽培面積を拡大し、作業の効率化を進める計画を立てました。しかし、近年の気温変動や乾燥など栽培環境の厳しさが増す中、最新の環境制御技術を含むハウス建設には多額の初期投資が必要となり、安定した返済計画の策定が課題となっていました。

そこでJAは、弘樹さんの就農状況を踏まえ、「青年等就農資金」や「農業近代化資金」の活用を提案。経営シミュレーションを共にを行い、将来の収益増を見込んだ無理のない融資プランを構築しました。

次世代へつなぐ、環境に対応した強い農業へ

弘樹さんの声：「JAさんの力強いサポートのおかげで、資金面に目処が立ち、ハウス新設という大きな一



歩を踏み出す決意ができました。父が守ってきた『麗旬』の味や品質をしっかりと受け継ぎつつ、これから新しく建てるハウスで最新の栽培技術に意欲的に挑戦し、より多くのお客さんに喜んでもらえるトマトを届けていきたいです。」

一博さんも、弘樹さんが新しい感覚で経営を支えてくれることに大きな期待を寄せています。JAは今後も、技術指導と金融の両面から長島さんの安定経営をサポートし続けます。

支店長代理 佐藤 俊幸



今回、弘樹さんの就農という大切な節目に立ち会えたことを大変嬉しく思います。「お客さんに選んでもらえることが喜び」という弘樹さんの真っ直ぐな言葉に、私自身も身が引き締まる思いでした。一博さんの豊富な経験と、弘樹さんの新しい挑戦を「農業融資」という形で繋ぐことができ、地域農業の未来を支えるやりがいを感じました。これからも、農家の方々の「期待」に応えられる担当者として、全力で伴走していきたいと考えています。